



「CS教師は礼拝者」

朝霞聖書教会牧師 林 俊宏

今月号では、CS教師とは何かの2つ目の面、「CS教師は礼拝者」であることを学びます。特に、今回は、CS教師が礼拝というプログラムを守るという意味ではなく、私たちの生活全体を通して神を礼拝するものであることを学びます。

「(前略) あなたがたのからだを、神に受け入れられる、聖い、生きた供え物としてささげなさい。それこそ、あなたがたの霊的な礼拝です。」(ローマ 12章1節)

パウロは、ローマ人への手紙 12章1・2節で、私たちの礼拝の大切な要素のひとつは、「あなたがたのからだを・・・ささげ」ることだと教えています。そして3つの言葉を使って、私たちに自分のからだの献げ方を教えています。これらの3つの要素について、1節と2節を対比しながら具体的に考えてみましょう。

1. 神に受け入れられる

「この世と調子を合わせてはいけません。」(2節)

このことばは、「この世に同化しない」、「この世のやり方(ファッション)にはまり込まない」、という意味があります。

日曜日は、教会学校で教師のお面をつけて、子どもたちに神を信じ神に従うことを教えていながら、月曜日からは別の顔で、神を知らないこの世の価値観、生き方に平気ではまり込んで生きているなら、私たちの礼拝と奉仕は、神に喜ばれるものとは言えないでしょう。

特に、今の時代は、インターネットを通して、神に喜ばれないこの世の闇の世界に、誰でも容易に足を踏み入れることができる時代です。今まで以上に、この世と調子を合わせる誘惑が、私たちを取り巻いているといっても過言ではありません。その様な中で、私たちは神を礼拝し、神に従う者として清算しなければならない罪の問題や、悪習慣がないのでしょうか。キリストの罪の赦しときよめを求めましょう(第一ヨハネ1章9節)。

2. 聖い

「いや、むしろ、神のみこころは何か、すなわち、何が良いことで、神に受け入れら

れ、完全であるのかをわきまえ知るために」(2節)

聖さには、「～から離れる」という消極面とともに、さらに一步踏み出して、「神のことばを学び、神のみこころを知り、神に仕える」という積極面もあります。

私たちは、前述のように神を知らないこの世の価値観や生き方によって支配されないように気をつけるとともに、「もっと神を愛し、もっと神のために働きたい」、「もっと多くの子どもたちが神のことばを聞くことが出来るためにはどうしたらいいか。」など、さらに積極的に神のみこころを知り、神に仕えることを求めていきましょう。そのような意味で、聖さを求める者でありたいと思います(第二テモテ2章14-26節参照)。

3. 生きた供え物

「心の一新によって自分を変えなさい。」(2節)

「クリスチャン生活は、神に受け入れられ、聖くなるために、自分で一生懸命に努力していかなければならないのか。」と悲観的になる必要はありません。神は、私たちが自分自身を喜んで神にささげて、神に従って生きる者と育つことができるように、私たちのうちに聖霊なる神を送って下さいました。聖霊は、私たちの罪の性質を洗いきよめてくださり・心の一新の意味・(テトス3章5節)、神に従う新しい性質を育ててくださいます。

ですから、私たちはすべての働きが完全にできなくても、失敗したとしてもめげる必要はありません。毎週の奉仕を祈りつつ、心を込めてしていきましょう。それが、私たちの神への生きた供え物となるのです。そして、神様は、その供え物を喜び、私たちの奉仕を通して、教会学校に集まるひとりひとりを祝福してくださるのです。

ディスカッションガイド

①「自分のからだをささげる」ことの3つの要素はどんなことですか？

②その中で、あなたに欠けていた点はどんなことですか？